

県立竜ヶ崎第一高等学校自己評価表（定時制）

目指す学校像		多様な就学動機の生徒たちが、学ぶことの意義や喜びを感受・体験できる教育環境の整備に努め、充実した生涯学習の場の形成を図る。		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
全学年にわたり落ち着いて学習に取り組める環境が整いつつある。 特に中学校時代に不登校だった生徒がほとんど休まず登校するようになるなど安心・安全な定時制高校になった。 個別面談を定期的に行ったり、教員間での情報交換の機会を多く設けるなど生徒を指導する体制も整った。 小学校高学年から中学校3年生までに習得すべき学力を習得できていない生徒に対し、数年前から「基礎学力補習」を実施することになった。この補習により通常の授業に対する生徒達の意欲がより高まる事を期待したい。	○学習指導の充実に努め、確かな学力の定着を図る。	○授業への積極的な参加を促し基礎的・基本的内容を確実に身に付けさせ、一人一人が楽しく学べるよう学習環境を整える。 ○授業内容や指導法の工夫に努めながら指導スキルの向上に努め、日々の授業を充実させる。	B	
	○進路指導を充実させ、希望する進路の実現に努める。	○個別面談を効果的に実施し、個々の生徒の実態を把握し、それぞれの能力・適性に応じた適切な進路指導に努める。特に就職指導・キャリア教育の充実に努める。 ○有効な進路情報の提示や資料の収集・活用に努め、日常のふれあいの中で生徒との良好な人間関係を維持し、自ら進路決定できるよう支援する。 ○教員間の情報の共有化を促進し、組織力・協働力で効果的な進路指導を進める。	B	
	○基本的な生活習慣の確立に努め規範意識を培う。	○「凡事徹底」～社会の一員としての自覚を促し、当たり前のことを当たり前に行える生徒の育成に努める。あいさつの励行、清掃の徹底、規範意識や道徳心の育成により、落ち着いた学校生活づくりに努める。 ○教員間の協働体制の下、教員側の聴く態度を重視し教師と生徒の信頼関係の保持に努める。 ○心の悩み・仕事上の困りごとの把握や問題行動の早期発見・早期解決に努める。	B	
	○体育・スポーツ活動を奨励し、心身の陶冶と体力向上に努める。	○体育の授業や学校行事に積極的に参加させ、自ら考え行動する中から運動する楽しさや仲間と味わう喜びを体感させ、より一層の活動意欲を促す。 ○定時制通信制大会での自己の役割を自覚させ、助け合いや協力を通じて仲間意識を持たせ、生徒間の相互理解や相互尊重の心、いわば道徳心を養う。 ○校外活動をとらして社会環境への関心を高め、意欲的に社会貢献できる心豊かな人材の育成に努める。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教科指導	生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力の充実・向上に努める。	生徒の実態に即した学習計画の立案と学習指導法の工夫を図る。	A	数年前に開始した基礎学力補習を十分に実施できなかった。次年度は綿密な計画を立て実施し、参加者も増やしたい。そのために、基礎学力補習に参加が可能な生徒に対しては、教員側から積極的な声かけをしたい。
		学習評価は、観点別学習状況から総合的に評価する。	A	
		基礎学力補習や進学課外に積極的に参加させる。	B	
		欠席、遅刻に対する適正な指導を行う。	B	
成績不振者に対する適切な指導を行う。	積極的な授業参加を促し、欠席、遅刻の過多については厳正に対応する。	B		
教	国語	基本的な読解力や漢字力を身に付けさせる。	B	古典に関しては、書写を取り入れることで興味を持たせることができた。さらに工夫をしてゆきたい。現代文の分野では、語彙力を更に伸ばすことが課題である。漢検の合格率を高めることと合わせて指導の工夫をしたい。
		様々な文章を読ませることで、読書する習慣を付けさせる。	B	
	主体的な学習態度を身に付けさせる。	B		
地歴公民	地歴公民の基礎的な素養を身に付けさせる。	教科書の基本的な事項を理解させるために毎時間ノート提出を義務付ける。	A	生徒の関心をひきつけるようなビジュアル的な資料についての工夫は達成できた。とくに歴史科目において資料の活用を伴った授業展開を図る必要がある。
	現代社会の諸問題に関心を持たせる。	社会の事象について、資料に基づいて多角的に分析して、自分の意見を表現できるようにする。	A	
	地理的な見方・考え方を養う。	地図や統計を活用して地理的事象を追究する技能を身につけさせる。	B	
	歴史的思考力を身に付けさせる。	歴史的な事象を、資料・年表・地図等と関連させ学習できるよう工夫する。	B	
	資料・史料の活用を身に付けさせる。	資料の活用を通し、発見学習などの要素を取り入れる。	B	
科	数学	基礎的な内容を身に付けさせる。	B	数学的活動を通し、基礎・基本を身につけ、数学のよさを気づかせ、社会生活に必要な数・量・図形の知識や筋道立てて考える力を育成したい。
		数学のよさに気付かせる。	B	
		小学校・中学校の内容を未消化のままの生徒が多いことを考慮しつつ、将来、社会人として必要な基礎基本と言える数学的内容の修得習熟を図る。		
		数学的活動を通し、数学的な見方考え方のよさに気づき、物事を数学的に考えることの興味関心態度の向上を図る。		

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次 年 度 へ の 主 な 課 題	
教	理 科	提出物等の確認を計画的に行い、学習内容の定着度や理解度を把握する。	A	実験にも多くの生徒が積極的に参加しており、生徒の授業に対する姿勢は良好である。実験を踏まえて、思考をより深められるよう指導していきたい。	
		基礎学力の向上を図る。	A		
		学習内容を精選し、基礎的で科学的な語彙力の習得を向上させる。	A		
		生徒の学習意欲を常に喚起するような魅力的な授業展開と実験の充実を図る。	A		
		デジタル教材の活用を図り、より理解しやすい授業の工夫を目指す。	A		
	保健体育	スポーツ活動の意義の理解を深めさせる。	運動の楽しさや喜びが深まるよう努める。	B	運動を通して相互理解、相互尊重の態度を身に付けさせ、コミュニケーション能力を育てる。健康に対する知識や実践力を身に付けさせる。
		心身の健康についての理解を深めさせる。	技能の習得段階に即した、個に応じた指導を取り入れ、授業を展開する。	B	
		安全や健康についての理解を図る。	安全教育や健康教育を推し進めて理解を深める。	B	
	芸 術	基本的な技法を習得させる。	個々の能力・学習到達度に応じた指導を取り入れ、授業を展開する。	A	各自の能力を把握しつつ、より意欲的に取り組めるよう努めていきたい。
		完成させる力を身に付けさせる。	幅広い教材を取り入れ、興味・関心を引きだすよう努める。	A	
	外国語 (英語)	英語に慣れさせる。	基本的な語彙や文法を理解させる。	B	授業態度は全学年を通じておおむね良好である。ただし、知識の定着に関しては、繰り返し学習にもかかわらず、多くの生徒が不十分なまま終わった。
		英語がわかる喜びを味わわせる。	語彙や文法の理解から短文の理解につなげていく。	B	
異文化に興味を持たせる。		教科書の内容から文化の違いにも目を向けさせる。	A		
家 庭	家庭生活自立能力を身に付けさせる。	自立した生き方を考え「生きる力」を主体的に思考させる。	B	家庭と直結している社会の問題や課題を、生徒が自ら考えられる授業を目指したい。	
	基本的技法を習得させる。	実習を通し、技能と修得を目標とする。	B		
科 情 報	情報化社会に生きる方法を学ばせる。	コンピュータに親しみ、生活に必要な情報を的確に収集する方法と伝達方法を学ぶ。	A	IT社会の中で、IT機器をより安全にかつ効果的に利用できるようにしていきたい。	
		生徒一人一人の創作意欲を高めるような教材提示の工夫を行い、表現力の向上を図る。	B		
		情報機器等を使った実習を通して、身の回りの様々な問題解決方法を学ぶ。	B		
教 務	授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業の振替を確実にを行う。	A	急な年休の際の授業の振替について、確実に対応できるよう工夫をする必要がある。各科目の自習課題をあらかじめストックしておく等の体制を整備し対応できるようにしたい。また、授業規律の確立も次年度への課題である。	
		急な年休に対応できるよう、各科目の自習課題を常にストックする。	B		
		教科・科目の授業時間のバランスを図り、学校行事などの調整を図る。	B		
	進級率100%を目指す。	個に応じたきめ細かな指導を行う。	B		
	授業規律を確立する。	分かる授業の展開。観点別評価規準の明確化。学ぶ姿勢を教える。	B		
	校内研修の充実を図る。	研究授業の実施。気になる生徒の指導についての共通理解を図る。	B		
	生徒の実態に合わせた教育課程を研究する。	生徒・教員による教育課程の評価を点検し、改善すべき点を見いだす。	B		
教育活動の公表に努める。	積極的に中学校訪問を実施する。定時制専用の学校案内を作成する。毎月のHP更新を目指す。	B			

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次 年 度 へ の 主 な 課 題
特別活動	各種の学校行事を通して帰属意識・連帯意識・協調性・責任感を養う。	生徒が学校生活を楽しみ、帰属意識・連帯意識が高まる学校行事を行う。	A	定時通信制大会に多くの生徒が参加し、積極的に活動している姿が多く見られたが、文化祭においても、生徒会を中心に多くの生徒が参加できるようにしていきたい。
		生徒会行事を精選し、企画や運営に生徒がより主体的に参加できるようにする。	B	
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	欠席・遅刻等の多い生徒や生活の乱れの目立つ生徒について家庭との連絡を密にし、その状況把握に努め、生徒一人一人に応じた適切な指導を行う。	B	挨拶の励行、遅刻の防止など、日常生活の中での基本的なマナーを身に付けさせる。 生徒の動向を把握し、問題の早期発見、早期指導に努める。
	高校生・社会人としてふさわしい言動や社会規範を身に付けさせる。	日々の学校生活の中で、場面場面に応じた効果的な指導に努め、定時制における落ち着いた学校生活の環境整備を図る。	B	
	迅速な情報収集と的確な対応に努める。	定例職員打合せを通して全職員が生徒の動向を把握、共有することによって、問題の早期発見と早期指導に努める。	B	
	教育相談の充実	カウンセリングを通して、心の教育の充実を図る。	B	
進路指導	個々の生徒の能力・適性に応じた進路指導に努める。	進路セミナーの実施などの他、進路別・個別的な進路相談を計画的・継続的にを行い、生徒の主体的な進路意識の涵養に努める。	B	進路セミナーなどの行事は予定通り行うことができた。進学・就職ともに適宜情報提供をしていったが、個別の指導をさらに丁寧にしていくことが必要であると感じた。また、早い時期から進路に関する情報を提供して、考える機会を持たせる工夫をしたい。
		進路情報の収集と提供に努め、生徒や保護者への啓発を図る。	B	
	進学希望者への対応を図る。	面接指導や個別の学力向上対策を通じて、進学のための目標実現を目指す。	B	
	ニートやフリーターにならぬように指導を強化する。	ニートなど、卒業後の目的意識が希薄な状態にならないよう指導する。	B	
保健室指導	こころの居場所としての保健室経営と健康相談活動の充実を図る。	生徒が話しやすい環境づくりに努め、個別相談指導を行うなど、多くの生徒が訪問し利用できるような心の居場所としての充実を図る。	B	心身に問題を持つ生徒の心のよりどころとして保健室を利用しやすいように環境作りに努める。一方で保健室が怠学の場とならないよう必要に応じて授業への参加も進めていく。今年度課題とした、歯の健康については、歯科専門の講師を招き実践を含めた講義を行うことができた。結果、多くの生徒が口腔衛生について関心を持ち、自分の健康について考えるきっかけづくりができたので引き続き今年度も取り入れていきたい。
		心の問題を抱える生徒の支援として、スクールカウンセラーによる相談へ繋げられるよう架け渡しを行う。	B	
		保健指導として、感染症、性知識、疾病についての健康、教育活動を行い、生徒の健康に対する意識を高める。	B	
図 書	本に親しむ習慣を身に付けさせる。	生徒に対して図書購入希望調査を行い、適切な図書の購入と蔵書の整備に努める。	B	国語の授業と関連づけて積極的に図書の紹介を行っていく。
第1学年	基本的な学習習慣を付けさせる。	授業に参加することの大切さを理解させ、毎時間目的をもって学習する習慣を付けさせる。	B	ほとんどの生徒が目標を達成してしたが、生活習慣の乱れのある生徒が若干みられる。生徒の人間関係は比較的良好で、他人を差別することなく接している。 中学時代の不登校について彼らなりの目標をたてることで、高校では克服しつつある。より具体的な進路について、生徒が明確な意識を持てるように指導する必要がある。
	基本的生活習慣を身に付けさせる。	学校生活における基本的生活習慣を理解させ、集団生活を通じて規範意識を養わせる。 LHRの時間や学校行事などの機会を通して人間関係を育てていく中で、他者に対する思いやりの気持ちを持たせる。	A	
	高校生活に意欲を持たせる。	様々な理由で学校生活に適應できずにきた生徒達であることに留意し、面談を行いながら生徒理解に努め、各人に応じた目的を持たせて高校生としての生活に意欲を持たせる。	A	
第2学年	基本的生活習慣の確立を図る。	定期的・継続的な遅刻・欠席・挨拶・授業態度等に関する指導を行うとともに、将来の就労に向け基礎的な振る舞いに気付かせる。	A	一部を除いてほとんどの生徒は、欠席・遅刻・早退が少なく、規則正しい生活を送れるようになった。皆勤者も増え、充実した学校生活を送っている。今後は、就職・進学に向けて基礎学力向上に向けて、クラス全体や個別に指導していく必要がある。
	基礎学力の向上を図る。	生徒の実態に応じたゆとりある授業編成を計画するとともに、日々の生徒の学習環境・心身の状態に留意し、授業の大切さを強調しながらその出席率の改善を図る。	B	
	不登校や中退者の削減を図る。	個別面談・HR等や他教員との連携を通して生徒理解を深め、生徒との信頼関係を築いたうえで、家庭環境・心身の状態に留意しつつ内面に働きかけ、家庭との連絡を密にしながら指導を行う。	B	

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次 年 度 へ の 主 な 課 題
第3学年	自己実現を図るために、基礎学力の定着に努める。	自己の目標を明確にさせて、意欲的に授業に臨むことができるように指導する。	B	自らの進路について、具体的に考えさせる、そのために必要なことが何であるか理解させ、身に付けさせる。社会生活を送っていくうえで必要な規範意識を養う。
	卒業後の進路を見据えて、個々の生徒に応じた進路指導を行う。	適宜進路についての面談を行い、進路実現のために情報を提供して、各人が目標を持って学校生活を送れるよう指導する。	B	
	挨拶等礼儀作法の大切さを理解させ、身に付けさせる。	学校生活の様々な場面や面接指導などを通して指導してゆき、社会で必要とされるマナーを身に付けさせる。	B	
第4学年	高校生活最後の学年にふさわしく目標・目的を持ったハリのある生活を送らせる。	あらゆる機会にできるだけ個別指導を行う。また、保護者との連携を密にする。	B	就職を希望する生徒への指導は、ある程度適切に行うことができた。一方で進路意識の低い一部の生徒を十分に指導しきれなかった面もあった。4年生として、おおむね落ち着いた学校生活を送ることができたが、現状に満足せず、さらに改善できるよう努力したい。
	進路指導の充実を図る。	各種進路情報を収集し、そのつど生徒に提供する他、面接指導など、希望進路実現に向けた取組を実施する。	B	
	実社会に適応できる生活習慣を身に付けさせる。	あいさつやマナーなど、卒業後社会人として必要な生活習慣の浸透を図る。	B	

※評価基準: A=良好 B=普通 C=不十分(問題あり)